



# 県議会答弁と異なる 県政であってはならない

## 岩城副知事 ビキニ対策で明言

●2月3日、県が本年度中に実施予定のビキニ被災船員の健康相談会、シンポジウム、そして救済への法整備検討が、当の被災船員や遺族を置き去りにするような形で実施されようとしていることは、県議会での知事答弁から大きく後退するも



のである、改善をすべしと、「太平洋核被災支援センター」は岩城副知事に要請を行いました。1月23日の県健康政策部長への要請に続くもので、吉良も同席しました。

●副知事は、「課長が変わると方向が変わるような県政であってはならない」「新しい知事にも説明し、担当部課長にこれまでの要望に応えるよう伝えたい」と述べました。

## 労災適用で救済を 2.11 弁護団結成へ

●ビキニ労災適用を求める弁護団（高知5人）を結成し、

「ビキニ労災訴訟を支援する会」準備会を2月11日に開き、3月に提訴すると「太平洋核支センター」は述べています。多くの元漁船員の救済につながる訴訟となります。





**キラリンにゃんでも通信**

●まずは、ゆとりをもって子どもたちに接することができる教育条件を保障する事、標準定数を見直し先生を増やすことに予算を投入しましょう

文科省、県教委は事業の優先順位を間違えています。

文科省はパソコンより先生を教室によこせ

●県民の批判の強い全国学力テストを子どもたち全員にパソコンを持たせる「改善」で実施すると文科省。いやいや、それでは12月議会で指摘し県教委も認めた「授業より過去問練習」等々の弊害は拍車が掛かることはあっても「改善」はされない。「学テの点数」を追いかけ、肝心の「学力」は後景へと押しやられ続ける。

●今、教育行政が第一に急いで行くべきこと、それは、先生が足りず「学力」をつける環境すら不十分な学校現場を改善すること、先生を増やすことだ、と思っているところへ「吉良さん、パソコンやめさせて」とタイムリーな匿名でのお電話！おっしゃる通り！